

科目名	建築設備							年度	2025
英語科目名	Building Equipment							学期	前期
学科・学年	建築学科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	藤原 正城	教員の実務経験		有	実務経験の職種		設備設計・省エネ適合性判定員		
【科目の目的】									
建築計画・設計を行う上で必要とされる「建築設備」について学習する。 時には、実務的な経験談を織り込みながら出来るだけ平易に解説し、将来の1・2級建築士受験に当たり必要な基礎知識を習得する。 これからも一層興味を持つきっかけとなる様楽しく学ぶ。									
【科目の概要】									
建築設備概論、給排水衛生設備、空調設備、電気設備、搬送設備の基礎的な知識と建築計画への応用を学ぶ。 時には、実務的な経験談を織り込みながら出来るだけ平易に解説し、将来の1・2級建築士受験に当たり必要な基礎知識を習得する。									
【到達目標】									
A. 建築と設備の関係性を認識している B. 給排水衛生設備の知識を持っている C. 空調設備どのようなものか理解している D. 電気設備がどのようなものか理解している E. 搬送設備の知識を持っている									
【授業の注意点】									
本科目は全て対面授業で実施する。教科書をベースにして重要な項目についてはマーカーでラインを引く。 授業ノート必ずとること、丁寧に書く必要はなくメモで構わない。 授業時数の 3／4 以上 出席しない者は、不合格とする。 私語・いねむり・着帽等 注意しても続ける場合は担任の先生に報告し指示を仰ぐ。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	建築と設備を深く理解し、快適な室内環境を自ら作り出すことができる。	建築と設備の関係性が重要だと認識している。	建築と設備の関係性を認識している。	建築と設備の関係性の関係を理解していない。	建築と設備には関係がないと考えている。				
到達目標 B	建築に合わせた最適な給排水衛生設備を自ら計画することができる。	建築に合わせた給排水衛生設備の知識を持っている。	給排水衛生設備の知識を持っている。	給排水衛生設備について理解していない。	建築に給排水衛生設備は必要はないと考えている。				
到達目標 C	建築に合わせた最適な空調設備を自ら計画することができる。	建築に合わせた空調設備の知識を持っている。	空調設備がどのようなものか理解している。	空調設備について理解していない。	建築に空調設備は必要はないと考えている。				
到達目標 D	建築に合わせた最適な電気設備を自ら計画することができる。	建築に合わせた電気設備の知識を持っている。	電気設備がどのようなものか理解している。	電気設備について理解していない。	建築に電気設備は必要はないと考えている。				
到達目標 E	建築に合わせた最適な搬送設備を自ら計画することができる。	建築に合わせた搬送設備の知識を持っている。	搬送設備の知識を持っている。	搬送設備について理解していない。	建築に搬送設備は必要はないと考えている。				
【教科書／教材】									
「初学者の建築講座 建築設備」 大塚雅之 著 市ヶ谷出版社 / 色鉛筆、定規、マーカーペン、ノート									
【参考資料】									
小テスト、パフォーマンス課題等のプリントを適宜配布する									
【成績の評価方法・評価基準】									
学期末に行う定期試験、授業中に実施する小テスト、学習した知識を活用するパフォーマンス課題等で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

